



ル一
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2024年5月5日

No. 120

イエスは、わたしたらのために、命を捨ててくださいました。
そのことによって、わたしたちは愛を知りました。

ヨハネの手紙一 3章16節・新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

行って、あなたも同じようにしなさい。

ルカによる福音書 10章37節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



さて、「わたしは良い羊飼いである」という言葉は、ギリシャ語原文では、「エゴー エイミ」と始まっています。「エゴーエイミ」は、特にヨハネによる福音書に数多くみられる定型句になります。たとえば「わたしは道であり、真理であり、命である」というイエスの言葉は「エゴー エイミ」で始まっていますし、「わたしが命のパンである」「わたしは世の光である」と、この福音書だけでも 40 回、この定型句が用いられています。

また興味深いことに、ギリシャ語訳旧約聖書によると、主なる神がアブラハムに「わたしは全能の神である」（創世記 17 章 1 節）と言われるなど、神がご自身を言い表す際、同じ「エゴーエイミ」という表現が用いられているのです。旧約以来、主なる神はこの表現により、ご自身を表して来られたということがわかります。そしてこれは、主イエスにも引き継がれ、主イエスが「エゴーエイミ」と言われる時、それはイエスを通して、神ご自身が顕現されているというのです。

「わたしは良い羊飼いである」と言われる時、そのイエスを通して神が顕現されるということであり、この神の御心は、すべての人の罪の赦しのために、御子イエスに十字架の死を遂げさせるところに示されているということなのです。

ルーテル教会の聖餐理解について、触れておきたいと思います。聖餐の設定は、主イエスがいわゆる最後の晩餐において告げられた言葉を、その内容としています。コリントの信徒への手紙一 11 章 23 節以下に次のようにあります（聖書略）。この主イエスの言葉を聞く、これがルーテル教会の礼拝における頂点の一つとなっています。他の 2 つの頂点を合

わせ、いずれも頂点となっているのは、御言葉を聞くことにあるとわかります。

ここでルーテル教会の聖餐理解になりますが、それはパンとぶどう酒に「現在する」と理解されます。「現に在す」という意味です。「これはわたしの体である」「これはわたしの血である」というキリストの言葉と結びついて、キリストはパンと共に、パンのうちにあるいはぶどう酒と共に、そのうちにおられるということなのです。

「これはわたしの体である」「これはわたしの血である」と言われた言葉は、まさに「エゴーエイミ」「私は である」と言われる主の言葉と重なるように思われるのです。「これはわたしの体である」「これは、あなたがたと多くの人のために流されたわたしの血である」。この言葉に、この言葉が示す出来事、すなわちキリストの十字架の死において、神が現れてくださっているということです。

ヨハネの手紙一 3 章 16 節以下に次のようにありました（聖書略）。この言葉はまさに、キリストの十字架こそ、神の愛であると示していると言えるでしょう。主イエスは、「わたしは良い羊飼いである」と、神がイエスを通して顕現されたことを言い表しているのです。その神の御心は、私たちの罪の赦しのために、主イエスは十字架の上で命を捨てられたことの中に示されているのであって、これこそ「良い羊飼い」、神にふさわしく神に喜ばれる、私たちの羊飼いなのです。ここに神の愛が現れているのであって、この愛を知り、この愛によって、今という時を生かされるのです。「わたしである」と言われる主の言葉に、神の愛を聞き取って、すべての人と共に歩んでまいりましょう。（復活節第 4）

●キリストの十字架 尾〇〇壽

新約聖書に七つの書簡(3)を残した使徒パウロは「キリストはわたしたちの罪のために死んでくださった」(コリント一 15 章 3 節)と、贖罪死に言及しているが、それはいずれも前代から受け継いだものであった、と述べているので、類似内容の「神は罪を贖う犠え(いけにえ)としてみ子」(ローマ 8 章 3 節)を用いられたというロマ書の表現も先代の言い伝えを彼が継承したものと理解できる。

そこで私たちは、キリストの十字架上の刑死を罪の赦しの贖罪死とする見方が、いつ、どこで成立したのか、という大きな疑問の前に押し出される。

手始めに、ユダヤ教の聖典・旧約聖書に源流を辿るとすれば、人の子の使命と受難を暗示する「彼は、私たちの背きの故に刺し貫かれ、私たちの悪の故に、打ち砕かれた」と、「主の僕」の十字架の道を予見する第二イザヤ 53 章を迷うことなく最初に上げることができよう。

第二は「神は、イスラエルの悪を赦し、彼らの罪を思い起こさない」と、神と民との契約の場で宣言されたエレミヤ書(31 章:34 節)である。この章句は「あなた方(弟子たち)のために流される私の血」(ルカ 22 章 20 節)の遡源であると言われている(4)。

第三は、モーセが神と民との仲介者として若い牡牛の血を祭壇に注いだ後、契約の内容を民に説いて確約させ、祭壇同様民にも振りかけ、神と民との血による契約の締結を果たした出エジプト記(24 章:6~8 節)の故事来歴に見ることができる。

ここでは血の献げ物(若い雄牛)が和解と契約を成し遂げ、民族を救いに導く前提になっているが、それはいずれもキリストの十字架刑死の解釈に決定的な影響を与えたことに疑問の余地がない。

ところで、四つの共観福音書が同じ内容の旧約思想を共有しながら、マタイ福音書のみが突出して贖罪死観を採用した理由は、一体どこにあったらうか。

再び、大きな疑問の前に押し出される。そこで、解明の手掛かりを得るため、私たちはマタイの置かれた当時の状況に立ち入る必要がある。

マタイは、使徒パウロと同様にギリシャに精通したユダヤ人で、ヘレニズム世界のディアスポラを舞台に開拓伝道に従事し、教会形成に献身したと言われている(5)。

憶測の域を出ないのですが、十字架にまつわる流言蜚語の飛びかう異邦人社会委にあって彼は、イエスの刑死の意味を旗幟鮮明に打ち出す必要性に迫られたのに違いありません。

キリストの十字架の刑死を、罪の赦しの贖罪死とみるマタイの立場は、その後擬似パウロ書簡(5)にも受け継がれ、今日のキリスト教会を支える中心的教義として定着(6)、併せて、洗礼や聖餐などの聖礼典(サクラメント)を厳守し、連綿と制度を維持して来た。

キリストの十字架こそが、福音の中心であり、信仰の基礎を形成する、と語った神学者ヘンゲルの言葉こそ至言というべきであろう(7)。

注釈 (3) 加藤隆著『「新約聖書」とその時代』

NHK 出版 2010 年 138 頁/パウロ七文書(成立順I テサロニケ ガラテヤ書 I・II コリント人への手紙、ローマ人へ ピリピ人へ)

(4) フランシスコ会「聖書」 2013 年 2099 頁 註 4

(5) 田川建三訳書「新約聖書」(訳と註) 第一巻 作品社 2009 年 862 頁/868 頁

(6) 擬似パウロ書にみる贖罪死の記事、エフェソ 五:2 第一テモテ二:6 テトス 二:14

(7) 八木誠一著「回心イエスが見つけた泉へ」 ぶねうま舎 2016 年 218 頁

※前月号の本稿にて誤りがありました。「終結」(正)「集結」(誤) お詫びし訂正いたします。(編)

●女性会だより

4月21日 11名出席

司会、○山姉 讃美歌 95番

1 聖書の学び

マタイによる福音書 26章40節

わかっているようでわからなかった箇所である→人間の期待と神の御心が入り組んでいる。

キリストと弟子達との有名な場面。祈るイエスと眠る弟子達。眠る弟子達こそ私達の姿であり、眠っている私達を主は受けとめてくれる。そこに信仰がある。

2 女性会例会

あり方検討委員会について

委員の募集の説明

各教会で問題を提議していく。

6月7日、8日の連盟総大会について

3 その他

5月からの例会は礼拝終了後にそれぞれ昼食を取った後から始める。

次回例会は5月19日

●牧師室より



4月より、城南神奈川地区に属する12教会のうち、単独教会は藤が丘教会を含め、4教会となりました。残りの8教会は次のように兼牧体制となっています。雪ヶ谷と田園調布、蒲田と横須賀、日吉と横浜、湯河原と小田原の4組です。地区外では、千葉教会と津田沼教会が4月より、新たに兼牧体制となっています。首都圏でこれほど兼牧体制が見られたことは、かつてなかったと思います。今後減るところか、この傾向が一層強まることが予測されます。それほど牧師不足が深刻化

今月、受洗記念日を迎えた方々

14日 ○田○兄 ○嘉恵○子姉

15日 上○○哉兄 17日 ○田○恵姉

21日 ○藤○子姉 25日 ○野○兄

26日 ○谷かな○姉 27日 ○田○子姉

おめでとうございます。



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書10章37節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



しているということです。

そのような中、私たちはどのようにしたらよいか、話し合うことが求められていると言えるでしょう。自分たちの教会のことだけではなく、どのような協力ができるのかを、役員会だけではなく、信徒の皆さんも共に考えてみることは大切だと思います。

5つの教会（都南、雪ヶ谷、田園調布、大岡山、藤が丘）の牧師会では、6月に講壇交換を計画しています。まずは顔を合わせる機会を作ろうということです。これを機に、協力体制について考え始めることが出来ればと願います。

また教会内への配慮も必要です。教会として、皆さんのところに赴き、礼拝（聖餐式）をともに出来ればと思っています。ご希望の方は遠慮なくお申し出ください。（佐藤）



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。